

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



学びを繋ぐ！～リスペクト(尊敬)とプライド(誇り)！～

「時を守り、場を清め、礼を正す」～その②『わずか7分にこめるリスペクトとプライド』～

掃除で注目を集めている企業がある。JR 東日本の子会社で、新幹線の掃除を担当している鉄道整備会社、通称テッセイである。東京駅などで新幹線に乗ると、一列に並んでお辞儀をする女性たちの姿を見かける。列車がホームに入る3分前に、ホーム際に整列する。列車が入ってくると、深々とお辞儀をして出迎える。降りてくるお客様には、1人1人「お疲れさまでした」と声を掛ける。お客の降車が終わると、7分間の清掃に入る。座席数約100ある1両の清掃を1人で担当する。約25mの車両を突っ切り、座席の下や物入れにあるゴミを集める。次にボタンを押して、座席の向きを進行方向に変えると、今度は100のテーブルすべてを拭き、窓のブラインドを上げ、窓枠を拭く。座席カバーが汚れていれば交換する。トイレ掃除の担当者もいる。どんなにトイレが汚れていても、7分以内に完璧に作業を終える。チームのリーダーは、仕事が遅れていたり、不慣れな新人がいる場合には、ただちに応援し、最後の確認作業を行う。なぜ、彼らが世界中の人に「そこまでやるのか」と言わしめるほど「たかが掃除」に取り組むのか。それは、仕事への「誇り」と「生きがい」。スタッフは自分たちで互いに認め合うことのできる環境や雰囲気をつくるため、目立たなくても現場でコツコツと頑張っている人の努力を評価し、みんなに見えるように褒める取組を考案。季節ごとに帽子にハイビスカスや桜の花をつけるなど、お客様に季節を感じてもらうためのアイデアやさまざまな取組を自分たちから提案。…たかが『掃除』されど『掃除』。自分たちがお客様の『おもてなし』をするんだという意識の変化で、最強の現場力・チームワークを生み出したテッセイ。JR 東日本内でも決して評判がよくなかったという「普通」の清掃会社が、「清掃の会社」から「おもてなしの会社」へと進化していった。「テッセイという会社の輝きを根っこで支えているのは、『リスペクト』(尊敬)と『プライド』(誇り)です」とある人は言う。掃除という誰にでもできそうな簡単な作業の中にも、リスペクトとプライドを見出し、そこから知恵やアイデアを出す。そこに日本人の深い職業観がある。今や世界がそれを学び始めている。



新幹線一両の掃除を1人でわずか7分で完璧に終える新幹線清掃員。彼女たちの輝きを支えている『リスペクト』(尊敬)と『プライド』(誇り)。何よりも自分たちで互いの頑張っている姿に気づき合い認め合い、より良くなるためのアイデアを出し合い、掃除という誰にでもできそうな簡単な作業の中にもリスペクトとプライドを見出し、輝きを生み出していく。まさに「日本一熱く絆強き学校」の実現に挑むわが一中の大きな道標になる価値観だね。何のためになぜやるのか！今の学びが将来の何につながっているのか！すべてを繋ぐ！

つまずきを次年度に持ちこさない！

3年生は14日に文理大付属高校、19日にその他私立高校入試、その後も入試が連続する。1・2年生は15日に市学力調査。22日には第3回英検。大切なことはそれまでの準備とつまずきを次に持ちこさないこと。そして、気づいたつまずきをまた次の準備に繋げる。受験の前後の取り組みが両方重要だね。テストにおいてもしっかりと学びを繋いでいこう。

